

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790700066		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	須賀川ケアハートガーデン グループホーム「やまゆり 東」		
所在地	福島県須賀川市木之崎字西田11		
自己評価作成日	令和2年9月29日	評価結果市町村受理日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年11月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの利用者様に満足して頂ける支援を行う為、全ての職員が様々な研修に参加できるようにしている。  
 ・本社研修・その他の外部研修への参加・会議後の内部研修を通じて、定期的に業務の振り返りを行っている。  
 ・利用者様の状態を把握し易くするためにセンター方式のシートを利用して、情報の共有に努めている。また、  
 正しく活用していくために、定期的に外部研修センターの講師を招き、研修を行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. センター方式の24時間シートに利用者の言動を細かく記入することで思いや意向を汲み取り、職員間で情報を共有している。また、法人が独自に作成したサービス計画書の様式により利用者一人ひとりの今必要なケアを考えたプランを作成し、利用者や家族の希望を踏まえた利用者本位のサービス提供に努めている。  
 2. 事業所に隣接している協力医や訪問看護ステーションとの医療連携により、24時間の医療体制が整備されている。そのうえで、利用者や家族が希望する終末期の看取り体制がとられており、看護師から指導を受けた職員がエンゼルケアまで行うなど、利用者が安心してその人らしい人生の最期が送れるよう支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様にとって満足できる暮らし、職員同士の円滑な人間関係・地域に愛される為の理念を施設内に掲げ、会議前等で定期的に読み上げて実践につなげている。	理念は、平成27年に開所した折のオリエンテーションでスタッフ全員で話し合って策定し、玄関フロアとスタッフルームに掲示している。月1回開催している月次会議の冒頭に唱和し、職員への浸透を図り実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と散歩に出かけた際に、近所の方にあいさつをしたり、近所のコンビニに利用者様と一緒に出かける事で地域の方に施設を身近な存在として認識して頂けるよう取り組もうとしているが、コロナの影響もあり、外出を自粛しています。	町内会に加入し、隣家との回覧版の受け渡しを行っている。現在はコロナ禍で自粛中であるが、地域の祭りに利用者とともに参加し、地元住民と交流を図っている。また、長年に渡り地元小学校の総合学習の訪問を受け入れ、さらに事業所の芋煮会のチラシを近隣住民に配布し住民の参加を得ているなど地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にお住まいの方からの認知症に関する相談事を随時受け付け・対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設での取り組みや行事内容をお伝えし、施設以外の視点から見える率直な意見や要望をお聞きし、サービス向上に活かそうとしているが今年、コロナの影響にて書面での報告にて済ませ、運営推進会議自体自粛しています。	運営推進会議に、行事・ヒヤリハット・事故・外部評価の内容の報告などを行い、委員から様々な意見が出され運営に活かしている。今年2月以降は、コロナ禍により運営推進会議を開催できない。そのため、資料を送付し委員から意見をもらうことで、運営推進会議に替えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には、こちらから市役所に出向いたり、電話にて相談に乗って頂いている。	市の担当職員は、運営推進会議の委員になっている。また、日頃から市の担当者にはコロナ禍での運営推進会議の開催や避難訓練等の実施の問題などの疑義について相談し、その都度、助言や指導を受けている。また、年1回開催される市主催のケアマネ連絡会で情報交換を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催しており、具体的にどのような行為が身体拘束にあたるのかの理解に努めている。玄関の施錠は防犯上の理由から夜間のみ行っている。	隔月で、身体拘束廃止委員会を開催し内容を職員全員に回覧し、周知を図っている。また、普段の中で不適切と思われるケアに係る無記名の職員アンケートを実施し、その集計を職員に周知した後に再度、記名によるアンケートを行い、集計結果に対する感想や今後の取り組みについて確認することを通じて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社独自の身体拘束廃止テキストを基に、内部研修を行い身体拘束について意識を高めている。職員同士が意識して、虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の該当者はいない。今後、必要となる場合には、制度を活用して支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、内容に関して疑問があればお聞きし、疑問が残らないように、分かり易い言葉で丁寧に説明し、納得して頂くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、普段の生活の中で意見や要望をお聞きしている。家族様には面会時や電話での連絡時に意見や要望をお聞きしている。また、運営推進会議には家族様代表2名に参加して頂き、意見を伺う機会を設けている。その他、玄関ホールに意見要望箱を設置して、口頭では言えない意見を出して頂くようにしている。	利用者の意見は、居室や浴室でゆっくり話を聞きながら把握を行うなど普段の生活の中で情報収集に努めている。家族の意見は、面会時や電話で連絡した時に話を聞くようにしている。家族からは行事の開催日の変更要望などが多く、出された意見はできるだけ運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見要望を聞くために、年2回職場懇談会を開いている。また、毎月のケア会議に管理者も出席し、意見と提案の場を設けて、改善に取り組んでいる。	職員の意見は、月次会議やケア会議で聞くようにしている。また、管理者はユニットリーダーとともに職員と個別面談を行い、意見や要望の把握に努めている。管理者と職員の代表者が、集約した職員の要望を伝える職場懇談会に出席し、法人に要望を伝え、運営等に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修や資格取得の講習会への参加が負担なく行えるような勤務体系を心かけている。また、有給休暇が取りやすい職員配置も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修で、それぞれの力量に応じて必要な研修を受けてもらっている。日常の介護業務の中でも、気付いた点を伝え合い、互いに向上できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市・各協議会主催の研修に参加した際に、交流を図るようにしている。社内的には他施設との合同会議等で、情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントで本人様の要望や生活層をお聞きして、入所以前の生活や人間関係が継続できるように努め、関係者、家族にも協力をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントで家族様の不安や要望をお聞きして家族様の思いを汲み取るようにしている。その時だけでなく、家族様の不安や要望には随時対応するようにして信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人様が「その時」必要としているサービスをケアプランに取り入れている。アセスメントと実際の生活の中で必要なサービスが異なる場合があれば、真に必要なサービスに変更する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様に無理なく出来る事を行っていただけるように、さりげない支援を心掛け、共に信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などで、本人と家族の繋がりを途絶えさせないことも本人様を支える家族の役割である事を伝えて協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人の来所持には、気兼ねなく話ができるよう、居室でゆったりと過ごして頂けるようとしているが、今年はコロナ対策として、来所前に事前連絡して頂き、面会室にて10分間と時間を決め、来所者にはフェイスシールドを装着して面会頂いています。また面会後は面会室の消毒を行っております。	現在、コロナ禍で自粛中であるが、家族の協力を得て実家への外泊・墓参り・行きつけの美容室や洋服店への外出・買い物などを支援している。また、コロナ禍においても家族や知人等との面会は、検温・消毒・フェイスシールド使用などの対策を講じ短時間に限り実施し、関係継続を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握して、気の合う方同士が同じテーブル席で過ごして頂くようにしている。他の方とうまくコミュニケーションが取れない利用者様に関しては、皆で参加するレクリエーションや職員が間に入って話題を提供するなどして孤立感を感じないで生活していただける様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまで培ってきた信頼関係を大切に、必要時はいつでも相談に応じる事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人様の意向の確認・思いを推察し、本人様が望む生活が送れるよう努力している。	センター方式の「私の姿と気持シート」を活用し、「24時間シート」に記録した本人の言動を吟味して本人の希望や思いの把握に努めている。また、会話ができない利用者の思いは、家族から確認した基本情報シートや面会時などに聞き取りした趣味嗜好などの情報から推測して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から自宅や本人の居所に訪問して、本人様・家族様・関係者から話を聞いて本人様の情報を把握するようにしている。入居後も、本人様の暮らしやすい環境を理解するように職員一人ひとりが努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態を利用者様ごとの専用シートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。月1回のケアカンファレンスでも、専用シートを基に現在の課題などを把握し、改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新時期に限らず、本人様の状態に変化が合った場合には、本人様・家族様の意向や他の職員の意見もケアプランに反映させて、現状に即した介護計画書を作成している。	ケアプランは、本人や家族の希望を踏まえて、リスクも考慮しながら、今必要なケアは何かを職員全員で話し合って作成している。モニタリングの時期に、2週間に渡って特に細かく利用者の言動を記入してもらった24時間シートを活用して、ケア会議で職員間で話し合いモニタリングを行い、ケアプランの見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活確認シートの項目に基づき、その日の様子、気づきやケアへの工夫を記入して、職位間での情報共有に活かしている。それらの情報をケアプラン見直し時期に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に、その時々ニーズに合った支援を行えるように本人様・家族様・関係者との話し合いの機会を設け、支援できることは随時おこなうように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア・地域公民館でのサロン・訪問マッサージ・訪問理容・配食サービスなどを利用して、それぞれの利用者様が楽しんで生活できるよう支援しようとしているが、コロナの影響で自粛している部分もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望される主治医がいる場合は、施設の協力医に変更する必要はなく、どちらの場合でも本人様の情報提供を適切に行い、必要な医療を受けられるよう支援している。	入居時、殆どの利用者は事業所隣の協力医を選んでいる。入居前からのかかりつけ医を継続受診している利用者は家族対応とし、生活状況や病状について書面で情報提供し、適切に受診できるよう支援している。受診結果も相互共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が気付いたことがあれば、利用者様が健康に生活できるように介護職員にも伝えてもらい情報共有を図りながら支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を病院の相談員に送り、病状や入院期間などの情報を得るように努めている。入院先に見舞いに行った際に医師や看護師・相談員へ話を聞くなどして関係作りにも努めてようとしている。コロナの影響により電話での対応を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に係る指針についての説明をしている。終末期には、早い段階で延命治療の有無や看取りについては主治医・家族・施設と話をし、方向性を決めている。	契約時に「重度化した場合の対応指針」により、事業所に対応できることを説明し、同意を得ている。終末期の対応については、家族等の意向を確認しながら関係者で話し合い、方針を共有しながら支援しており、看取り介護にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、周知徹底されている。内部研修で応急処置やAEDの使用方法なども行っている。また、普通救命講習受講も受けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼・夜を想定した避難訓練を行って、避難方法を身につけるようにしている。また、火災や災害に対応するマニュアルがあり活用している。	年間計画を基に、火災・地震を想定(昼・夜間)した避難訓練を実施している。また、消防署の指導を得ながらの訓練も実施している。本年は、運営推進会議委員の協力を得た訓練を計画したが、コロナ禍で実施できなかった。非常用備蓄品は、郡山支社で水・缶詰・乾パン等を備蓄しているが、事業所内には備蓄していない。	風水害を想定した避難訓練が実施されていないので、実施することが望まれる。また、非常用備蓄品は、災害発生時の移送リスク等を考慮し事業所内に備蓄することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応で、利用者様の誇りやプライバシーを傷付けるようなことがないように、日頃の支援に際して職員同士がお互いに注意し合う・内部研修を行うことでの意識付けなどを行っている。	利用者の誇りを尊重し人前で恥ずかしい思いをさせないよう言葉かけなど対応している。また、研修や言葉かけチェックで、職員同士が注意し合っている。書類等は、鍵付キャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く思いを伝えられない方には、選択肢を持たせて問いかけるような形で本人の意思を確認している。表情や態度から本人様の思いを汲み取るようにも職員一同心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れはあるが、本人様の思いや体調に合わせて柔軟に対応し、出来るだけ希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人様に選んでいただくか、以前からのお気に入りの服を着ていただくようにしたり、選べない方も選択肢を持たせ問いかける形で声掛けし選んで頂くようにしている。散髪も訪問理容だけではなく、本人様お気に入りの理容室や美容室に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	単に食事を楽しむだけでなく、味見・片付けの手伝い・テーブル拭き、お盆ふきなどその方の力に応じて手伝っていただくことも行っている。	献立作成・食材は外部業者に委託し、チルド食を導入し、ご飯・みそ汁は事業所で調理している。食事が少しでも楽しいものとなるよう、行事食(花見・夏祭り・芋煮等)や誕生日祝いのケーキ等は手作りで利用者の好みを反映しながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、食材業者の管理栄養士の作成するメニュー表に沿って作っている。塩分や水分量等で制限のある方は医師の指示を受けて制限量内での提供を行っている。また、本人様の嚥下状態に合わせて摂取し易い食事形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じて誘導・一部介助・全介助で介助している。義歯は夜間帯に洗浄剤に浸けることで清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁して不快な思いをさせないように時間を決めてトイレにお連れしたり、本人様の仕草や表情なども判断材料にして、トイレで排泄して頂けるようにしている。	排泄記録や利用者の仕草・行動等から排泄パターンを把握している。羞恥心や自尊心に配慮した声かけ誘導を行い、できるだけトイレでの自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関からの下剤の調整やお腹の運動・体を動かす運動・乳製品・オリゴ糖を摂取して頂くことで、便秘予防に取り組んでいる。それらの取組みで解消されない場合は、看護師による摘便や浣腸で便秘による不快感を軽減する取組みも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴予定となっているが、失禁で汚れる場合もあるので、その場合、入浴予定日でも入浴していただき清潔保持に努めている。また、体調不良で予定日に入れなかった方に関しては体調が戻ってから曜日をずらしては行って頂くようにもしている。	利用者の希望や体調を考慮しながら、週2回を目安に入浴できるよう支援している。入浴剤の活用や職員と世間話し等を楽しみながら入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には、時間や言葉かけ等を工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によって就寝時間も異なる為、施設の消灯時間に拘らず、眠れない場合は、フロアでテレビを見たり、職員との談話などして、寝たい時に寝ていただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬の確認をし易いように、個人別に処方箋を綴じている。様子観察と記録により状態の変化に合わせて調整できる薬は調整したり、医師に報告・相談して状態に合った薬を出して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの手伝い・片付け・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除など、一人ひとりの力を日々の生活の中で生かせる機会を作り、気分転換も図って頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の外出支援だけでなく、天気の良い日は近所の散歩やドライブなどで外に出て、施設以外の方との交流も図ろうとしているが、今年はコロナの影響にて外出支援自体極力自粛している。	日常的には、事業所周辺の散歩や事業所敷地内で外気に触れながら気分転換を図っている。例年、花見・ドライブ・紅葉見学等を実施していたが、本年はコロナ禍のため自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を所持し使用して頂いているように努めているが、今年は外出機会もコロナの影響にて減ってしまい、お金の使用機会もあまりできてはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様からの希望があれば、携帯電話の所持して頂いている。また、家族への電話の希望があれば職員が掛けるか、本人様に施設の電話を使って掛けていただくことも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを広めに使っていただけるように、テーブル位置を工夫して配置している。また、気の合う方同士が過ごせるように席の配置にも気を付けている。	玄関には併設の小規模多機能型居宅事業所の利用者が育てた草花を飾っている。また、リビングの壁面には行事写真を掲示している。職員が湿度・温度管理を行い、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる際には、気の合う方同士で同じテーブルに座って頂き、気をを使う方とは離れて座って頂くことで穏やかに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使用していた物を置く・物の配置を同じにする。家族の写真を置くなどして、自宅に近い環境にすることで寛いで生活していただける様にしている。	ベッド・カーテン・エアコン・空気清浄機を備えており、利用者は、クローゼットや整理タンス、机、テレビなど持ち込んでいる。鏡や家族写真を飾るなど、居心地よく過ごせるようレイアウトを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所やトイレの位置を分かりやすく表示して、自立して生活が送れるようにしている。歩行可能な方のために必要箇所には手すりを配置されている。		